

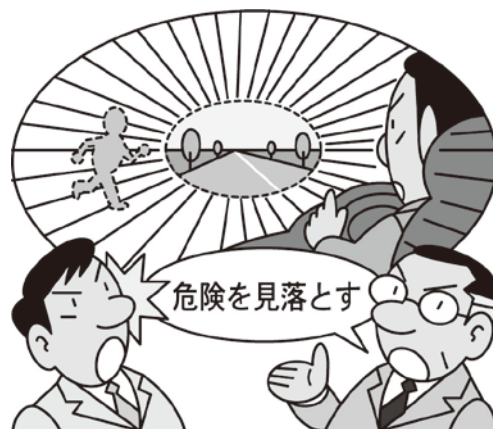
スピード抑制で実現! 無事故な年度末

①年度末の無事故を推進しよう

- スピード抑制に取り組もう
- 危険箇所マップを作成しよう

②車両を万全な状態にしておこう

- 車両の点検整備・清掃を実施しよう



スピード抑制に 取り組もう

年度末は業務が多忙となることから、ついスピードを出して運転しがちです。

スピードが出るにしたがい、視野は狭くなります。時速四十キロで走行しているときは、約一〇〇度の視野がありますが、時速二〇〇キロでの視野は約四十度になるといわれています。

つまり、スピードを出すにしたがい危険の発見の遅れや見落としにつながります。

また、的確な運転操作が難しくなるだけではなく、事故時の被害も大きくなるのはいうまでもありません。

そこで従業員に対して、こうしたスピードを出すことの危険を周知して、適切なスピードで走行するよう指導しておきましょう。

また、管理者も従業員が焦らず運転できるよう、時間

に余裕のある運行計画を立てることを心掛けておきましょう。

ルート上の 危険箇所マップを 作成しよう

業務で通行するルート上での事故防止を図るため、危険箇所マップを作成しましょう。

まず、従業員が通行中にヒヤリとした場所をはじめ、見通しの悪い交差点や交通量の多い場所など、事故が発生しやすいと思われる場所をピックアップします。その後、危険箇所について話し合い、とくに注意してもらいたい場所を地図上に記載していきます。

個々の危険箇所については、実際の写真や注意すべきポイント、安全な運転方法といった関連情報を併せて記載しておくことで、層効果的です。完成した危険箇所マップ

は、掲示板や食堂など、従業員がよく目にするところに掲示しておきましょう。

車両の点検整備・清掃を 実施しよう

車両を万全の状態にしておくことは事故防止の第一歩です。新年度に向けて、車両の点検整備を実施しておきましょう。

万一、不備が見つかった場合は、すぐに修理に出すなどの対策を実施します。

また、点検整備のときには、車両の清掃も併せて行いましょう。汚れた社有車は会社のイメージダウンにつながるだけではなく、運転者の安全意識の低下を招きます。

さらに、不要な荷物を積んでいると停止距離が長くなり、燃費の悪化につながります。不要な荷物は社有車から降ろすように指導しておきましょう。